兵庫県伊丹市
道路インフラ長寿命化修繕計画の概要

令和４年１２月

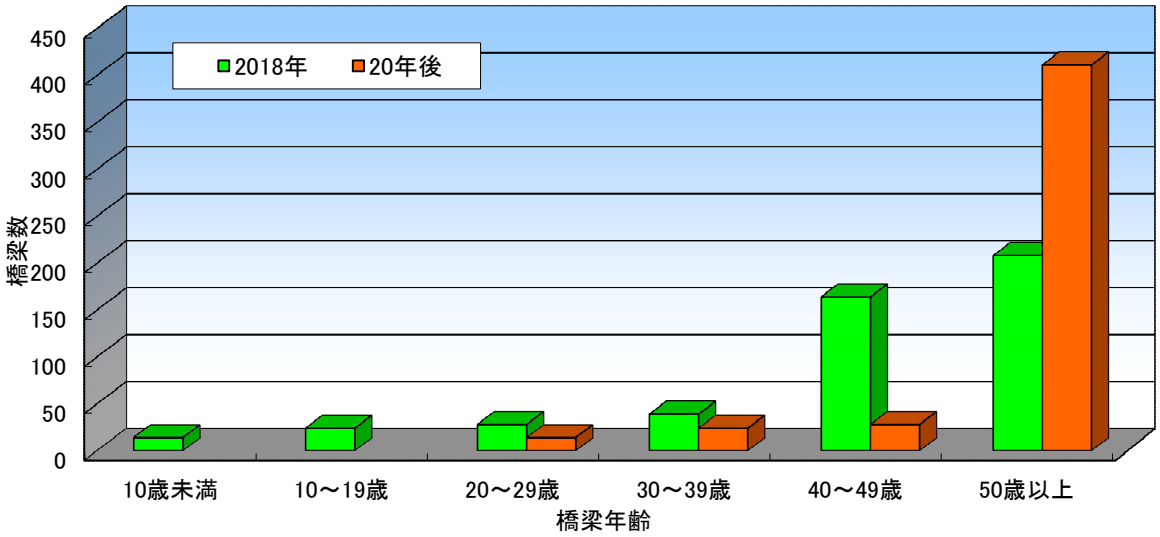
兵庫県　伊丹市
都市交通部　道路室　道路保全課

１．個別施設計画（長寿命化修繕計画）の背景

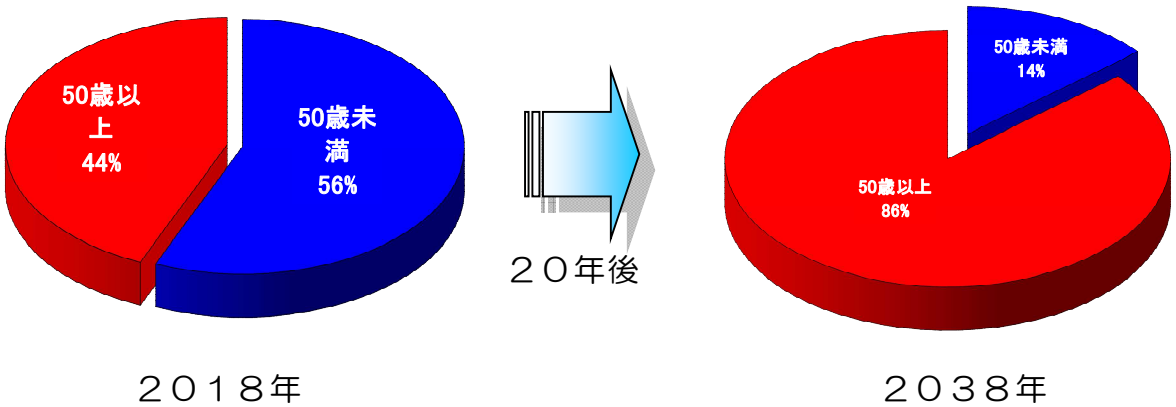
○伊丹市が管理する橋梁（横断歩道橋含む）のうち、２m以上の橋梁は４４８橋（４７７橋※）あります。
（※構造体単位で分けると４７７橋となり、以下のグラフは構造体を基本としています。）
○このうち建設から５０年を経過する高齢化橋梁は、２０１８年で２０８橋、約４４％ですが、今後２０年後には４１１橋、約８６％となり、急速に高齢化橋梁が増大します。
○伊丹市が管理するトンネルは、１箇所であり建設後７８年が経過している。
○伊丹市が管理する大型カルバートは、１箇所であり建設後１２年が経過している。
○このような背景から、今後増大が見込まれる道路インフラの修繕・架替えに対応するため、計画的な補修が可能となるよう適切な予算計画を行い、安全性の確保とコスト縮減を図ることが必要です。

（※経過年数については、平成３１年３月現在での評価になります。）

伊丹市が管理する橋梁の年齢の変化（橋梁）



高齢化橋梁の分布の変化（橋梁）



2．対象施設

＜橋梁＞

○平成３０年度の個別施設計画（長寿命化修繕計画）策定の対象橋梁は、伊丹市が管理する市道にある全ての橋梁について、橋梁個別施設計画（長寿命化修繕計画）を策定します。

	1級市道	2級市道	その他	合計
全管理橋梁	43	38	367	448
うち計画の対象橋梁	43	38	367	448
うちこれまでの計画策定橋梁数	40	38	341	419
○長寿命化修繕計画の対象橋梁：伊丹市が管理する全市道橋梁				

【橋梁】

大樋橋　（22 歳）
健全度判定　Ⅲ

満塚橋　（41 歳）
健全度判定　Ⅲ

【横断歩道橋】

佐々原歩道橋　（48 歳）
健全度判定　Ⅲ

有岡大橋歩道橋　（38 歳）
健全度判定　Ⅲ

＜トンネル＞

○平成３０年度の個別施設計画（長寿命化修繕計画）策定対象のトンネル１箇所について、計画を策定します。

荒牧トンネル　（78 歳）
健全度判定　Ⅲ

＜大型カルバート＞

〇平成３０年度の個別施設計画（長寿命化修繕計画）策定対象の大型カルバート１箇所について、計画を策定します。

岩屋トンネル　（12 歳）
健全度判定　Ⅱ

※健全度判定：橋の状態を四段階で表す値で、
「健全：Ⅰ」、「予防保全段階：Ⅱ」、「早期措置段階：Ⅲ」、「緊急措置段階：Ⅳ」となります。

3．定期点検

＜橋梁（横断歩道橋含む）・大型カルバート＞

○計画的な維持管理を行っていくためには、道路橋の健全状況を把握することが重要となります。そのために、通常点検と定期点検により道路橋の健全状態を把握していきます。また、地震や台風などの自然災害時には、異常時点検を行います。

通常点検

道路パトロールとして通常車内からの目視によって実施します。

定期点検（法定点検

基本的に５年に１回、「兵庫県道路橋定期点検要領伊丹市版」による定期点検を実施します。

異常時点検

地震、台風、豪雨等により災害が発生した場合もしくは、その恐れがある場合と異常が発見されたとき、主に橋梁の安全性を確認するため点検を実施します。

＜トンネル＞

○計画的な維持管理を行っていくためには、トンネルの健全状況を把握することが重要となります。そのために、日常点検、定期点検によりトンネルの健全状態を把握していきます。また、地震や台風などの自然災害時には、異常時点検を行います。

日常点検

道路パトロールとして通常車内からの目視によって実施します。

定期点検（法定点検）

基本的に５年に１回、「道路トンネル定期点検要領」による定期点検を実施します。

異常時点検

日常点検で異常が認められた場合に実施します。

臨時点検

異常気象時、地震時等により災害が発生した場合もしくは、その恐れがある場合と異常が発見されたとき、主にトンネルの安全性を確認するため点検を実施します。

※当計画策定対象施設（橋梁・歩道橋・トンネル・大型カルバート）の点検結果について、ホームページに掲載しております。２巡目点検結果（平成３１年度～令和４年度）については、計画更新内容も踏まえて令和５年度末に掲載する予定です。

4．伊丹市の管理理念

○伊丹市では、次の管理理念のもと橋梁及びトンネルの「個別施設計画（長寿命化修繕計画）」を策定し維持管理を行います。

1．基本理念（基本姿勢）

未来へつなぐ安全・安心で快適な道路インフラの確保

～ 効率的・効果的な予防保全の取り組み ～

2．方針（進める際のルール）

○老朽化対策

（１）点検や補修対策を適切に実施するとともに、状況に応じた速やかな緊急対策を行い、道路インフラの安全性を確保します。

（２）長寿命化を図るとともに、維持管理の効率化を図ることで、ライフサイクルコスト※1を抑制します。

（３）ＰＤＣＡサイクル※2により、常に見直しを図り、個々の道路インフラの安全性を確保するとともに、より効率的な修繕計画の実現を図ります。

○新技術の活用および費用の縮減

点検や補修対策を実施するにあたり、ライフサイクルコストを抑制または、効率的な新技術を積極的に活用することで費用の縮減を図るように努める。

○集約化・撤去

社会経済情勢や行政および地域における将来計画、橋梁の利用状況や健全性など総合的に勘案して集約化・撤去について検討を行い費用の縮減を検討する。

3．戦略（具体の進め方）

（１）定期点検を着実に実施します。

（２）深刻な損傷が発見された場合には、速やかに必要な緊急対策を実施します。

（３）計画的な補修対策を実施します。

（４）データベース整備による施設管理データの有効活用を行います。

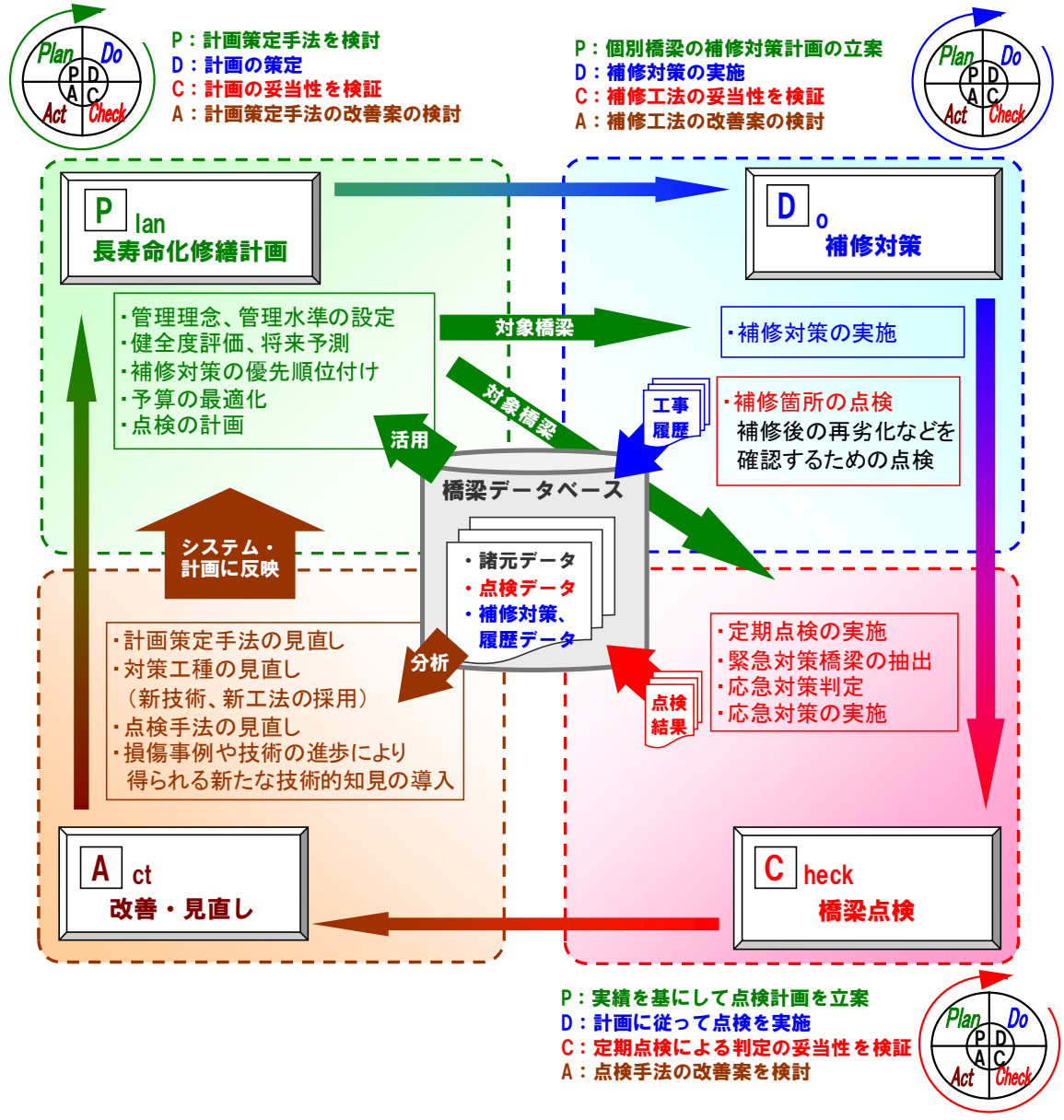
（５）適宜「個別施設計画（長寿命化修繕計画）」の見直しを行います。

（６）新たな知見を踏まえた継続的な改善を図ります。

※1 ライフサイクルコスト：橋などの構造物を計画・設計・施工し、その構造物を維持管理して、最後に解体・処分するまでの構造物の全生涯に要する費用に総額のことをいいます。

※2 PDCA サイクル　：Plan(計画)→Do（実行）→Check（評価）→Act(改善)の４段階を順に繰り返すことによって、業務を継続的に改善していくマネージメント（管理）手法の一つです。

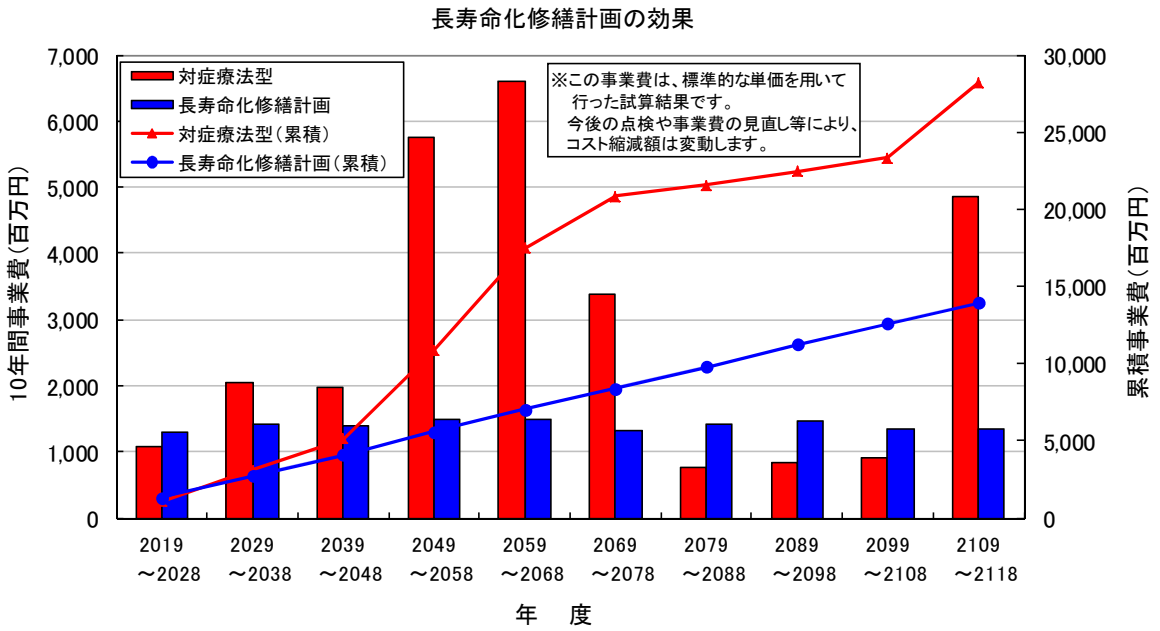
ＰＤＣＡサイクルのイメージ



5．計画策定による効果（橋梁）

○これまで損傷が大きくなってから修繕や架け替えを行っていましたが、今後は長寿命化修繕計画に基づき、各橋梁の重要性や損傷状況に応じた計画的な修繕や架け替えを実施することで、今後１００年間で約５０％のコスト縮減が見込まれます。

○また、これまでの修繕や架替えでは、膨大な費用が集中して必要であり、修繕や架替えが困難になることが予想されますが、長寿命化修繕計画により、予算が平準化され、計画的な修繕や架替えが可能となります。



6．ご指導・ご助言を頂いた学識経験者（橋梁）

○この計画を策定するにあたり、神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻森川英典教授にご指導・ご助言を頂きました。

7．担当部署

○兵庫県 伊丹市 都市交通部 道路室 道路保全課
　　ＴＥＬ：０７２－７８４－８１６０

8．改訂履歴

２０１９年　３月（平成３１年３月）　初版
２０２２年１２月（令和４年１２月）　伊丹市の管理理念を一部変更に伴い改訂